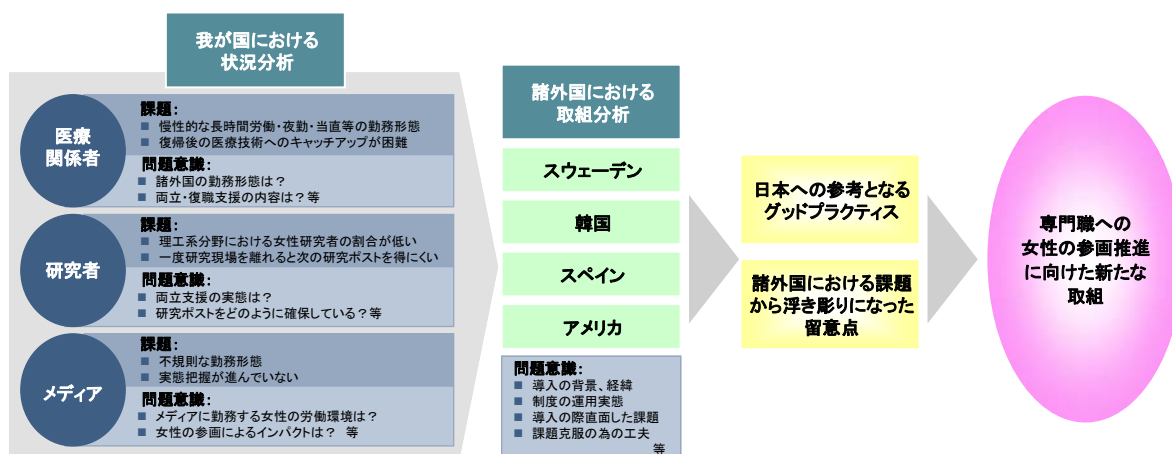


第1章 調査研究の概要

1. 調査内容

調査の遂行に際しては、日本における専門職への女性の参画に関する課題を念頭に置きつつ、情報の収集及び分析を行うこととした。国内調査を通じて各分野における日本の現状を把握した上で海外調査を行ない、日本への参考となるグッドプラクティス及び諸外国における課題から浮き彫りになった問題点を抽出した上で、専門職への女性の参画推進に向けた日本への示唆を整理することとした。

図表 1-1 本調査の実施方針



スウェーデン、韓国、スペイン、アメリカ合衆国を調査対象国とし、これらの国における、女性の参画を推進するための法制度、推進体制、女性参画の実態、両立・復職制度、ポジティブ・アクション等について、国内・外でヒアリング調査等を行い、調査対象国ごとに把握・分析した。

2. 調査の方法

学識研究者による調査研究会を設置し、検討を行うと共に、国内調査（文献・インターネット調査・国内有識者ヒアリング調査・国内の医療・研究者ヒアリング調査）及び海外調査の結果を分析し、同調査研究会における検討を踏まえて報告書として取りまとめた。海外調査は、学識研究者と事務局メンバーが同行して実施した。

各国の報告書前半（Ⅰ. 調査編）は、事務局が各調査結果と研究会の意見を踏まえ取りまとめ、後半（Ⅱ. 各国における取組みと日本への示唆）は、海外調査に同行した学識研究者が執筆を行った。第6章 1.各国の特徴と課題は、各国の調査結果と研究会での論議を踏まえ、研究会座長が執筆を行い、第6章 2.日本への示唆は、各分野の学識研究者が執筆を行った。第7章は、各分野の調査結果や別途実施したメディアにおける女性の参画に関する調査の結果を踏まえ、内閣府男女共同参画局において、国内の女性の参画の状況や国内での取組について執筆を行った。

各章における委員執筆部分については、個人としての見解であり、調査研究会又は内閣府の意見を示すものではない。

（1） 国内調査

① 文献・インターネット調査

現地調査に先立ち、国内において収集可能な情報を整理し、取りまとめを行った。収集を行う情報は、調査対象国における男女共同参画に関する法制度及び取組状況、男女共同参画に関する統計データ、医療機関・研究機関・メディアにおける女性の参画推進の取組状況、女性の社会的参画を取り巻く課題とし、文献及びインターネット等による検索作業を行った。

② 国内有識者ヒアリング調査

諸外国における男女共同参画の状況についてより具体的な情報を得るため、国内の有識者を対象としたヒアリング調査を実施した。

国内有識者ヒアリング調査は①文献・インターネット調査で把握できなかった内容を中心に、各国の専門職の女性参画の専門家からも情報収集を行った。国内有識者ヒアリング先を図表 1-2 に示す。

図表 1-2 国内有識者ヒアリング先（敬称略）

分野	ヒアリング先	所属・職位
スウェーデン	太田 美幸	鳥取大学生涯学習総合センター講師
韓国	中澤 渉	東洋大学社会学部専任講師
スペイン	齊藤 明美	駒澤大学総合教育研究部外国語第二部門講師
アメリカ	前田 真理子	一橋大学法学研究科准教授

③ 国内の医療・研究者ヒアリング調査

専門職への女性の参画に関する国内の課題を正確に把握する為、医療関係者、研究者に対するヒアリング調査を行った。国内の医療・研究者ヒアリング先を図表 1-3 に示す。

図表 1-3 国内の医療・研究者ヒアリング先

分野	ヒアリング先
医療機関	▪ 日本医師会
研究者	▪ 千葉大学 両立支援企画室（「女性研究者支援プロジェクト」）

（２） 海外調査

海外調査の調査対象は、スウェーデン、韓国、スペイン、アメリカ合衆国の 4 カ国である。ヒアリング調査の概要は下記のとおりである。

① スウェーデン

調査実施期間：2010 年 1 月 18 日（月）～1 月 20 日（水）

調査担当委員：藪長 千乃 文京学院大学人間学部 准教授

川邊 万希子 三菱総合研究所 人間・生活研究本部 研究員

調査対象先：

- 機会均等オンブズマン (Equality Ombudsman)
- 男女平等省 (Ministry of Integration and Gender Equality)
- スウェーデン医師会 (Sveriges läkarförbund)
- ヨーテボリ大学 (University of Gothenburg, The Swedish Secretariat for Gender Research)
- スウェーデン・ジャーナリスト組合 (Swedish Union of Journalists)

② 韓国

調査実施期間：2009 年 12 月 22 日（火）～12 月 30 日（水）

調査担当委員：森山 新 お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科 准教授

金 信娥 三菱総合研究所 地域経営研究本部 研究員

調査対象先：

- 淑明女子大学 人的資源開発大学
- 文化体育観光放送通信委員会
- 保健福祉家族部 保育政策課
- 女性部 政策総括課

③ スペイン

調査実施期間：2010年1月20日（水）～1月22日（金）

調査担当委員：齊藤 明美 駒澤大学総合教育研究部外国語第二部門 講師
川邊 万希子 三菱総合研究所 人間・生活研究本部 研究員

調査対象先：

- 女性研究所（Instituto de la Mujer）
- 科学技術革新省（大臣官房）（Ministry of Science and Technology）
- 労働者総同盟、国際部（Unión General de Trabajadores）
- María Dolores Ramos Palomo 教授（Universidad de Málaga）
- Margarita Josefa Mesa Montes 氏（元国営ラジオ（RNE）アナウンサー）
- Noemí Sánchez Castro 氏（モトローラ社員）

④ アメリカ合衆国

調査実施期間：2010年1月5日（火）～1月7日（木）

調査担当委員：砂田 恵理加 国土舘大学政経学部政治学科 専任講師
齋藤 美穂子 三菱総合研究所 海外事業研究センター 研究員

調査対象先：

- 女性メディアセンター（Women's Media Center）
- ドレクセル大学女性医学・リーダーシップ研究所（Drexel University, Institute of Women's Health and Leadership）
- アメリカ医科大学協会（Association of American Medical Colleges）
- 世界女性リーダーカウンスル（Council of Women World Leaders）
- 米国国立科学財団（National Science Foundation）
- 労働省女性局（Department of Labor, Women's Bureau）

なお、本文では、海外調査においてヒアリングを実施した訪問機関における取組事例を中心に記述している。これらの事例は当該国における専門職への女性の参画に向けた取組に関する有益な情報であるが、必ずしも調査対象国全土で実施されている取組ではないことに留意する必要がある。

3. 調査研究会について

調査研究を進めるにあたり、男女共同参画及び調査対象国についての専門知識を有する学識者からなる調査研究会を設置した。2009年度の調査研究会の構成員は次の通りである。

図表 1-4 委員構成（敬称略）

委員長	分野	委員名	所属・職位
委員長	研究	室伏 きみ子	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 教授
委員	医療	斎藤 加代子	東京女子医科大学附属遺伝子医療センター 所長・教授
委員	メディア	富川 淳子	共立女子大学文芸学部非常勤講師
委員	スウェーデン	藪長 千乃	文京学院大学人間学部准教授
委員	韓国	森山 新	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 准教授
委員	スペイン	齊藤 明美	駒澤大学総合教育研究部外国語第二部門講師
委員	アメリカ合衆国	砂田 恵理加	国土館大学政経学部政治学科専任講師
事務局	株式会社三菱総合研究所		

調査研究会は3回開催し、調査事項や調査手法の検討、調査結果の報告・分析を行った。

図表 1-5 調査研究会における検討内容

調査研究会	実施時期	検討内容
第1回	10月29日	調査計画書に関する検討 国内調査（中間結果報告） 海外調査の進め方に関する検討
第2回	1月28日	海外調査報告 日本への示唆に関する検討
第3回	3月11日	各国及び各分野の日本への示唆 報告書案の検討